

## 昭和48年度第2回シグマ研究委員会 炉定数 FFP WG. 会合議事録

日 時 : 昭和48年9月18日(火) 13:30~17:00

場 所 : 原研本部第3会議室

出席者 : 桂木, 菊池, 西村, 田坂, 長谷川, 大竹, 飯島, 松延,

- IAEA Symposium への論文

"Group Constants Set of Fission Products" のタイトルで8月末に完成し受理された。

なおこの作業中問題となつた "大型炉の形状係数" については、NAIGの山下氏の再計算の結果、我々の値が妥当である事が判明した。

- Cook のデータより得られた炉定数の刊行

JAERI-M-report として出版する事とし、その英文は検討の結果大体了承された。

- JNDC の評価データによる炉定数の刊行

Cookによるものとの比較検討を付けて JAERI-report として刊行する事にする。

- FP 核データグループとの今後の協力

核データグループとしては、今年度は以下の基本的な仕事に重点をおく。

- 1) 測定の request (例えば重要28核種中17核種は測定なし)
- 2)  $P_{\gamma}$  D 等の systematic trends の検討
- 3) レベル・スキームの検討

4) 共鳴領域の取扱い方の検討

従って、今年度中に特定の核種の評価データは出ないと思われる。

○ FP の integral data による check

Petten や ANL に data があるらしいので調査する。